

【開催要旨】

第9回 木曾川上流水防災協議会(岐阜ブロック)を開催し、「木曾川上流の減災に係る取組方針(令和3年度～令和7年度)」のフォローアップを行いました。フォローアップでは、輪之内町・本巣市による有効な取組内容の紹介に加え、委員間での意見交換を行いました。

また、重点的な取組である「教育委員会と連携した小・中学校への防災教育の幅広い推進」及び「排水作業準備計画の作成と計画に基づく訓練」について、令和4年度の実施内容と令和5年度の取組(案)を確認し、流域タイムラインや洪水時におけるWEB会議ツールの活用についても共有を行いました。

- 日 時： 令和5年5月15日(月) 15:15～16:00
- 場 所： 長良川国際会議場 4F 大会議室
- 出席者： 48機関(県、市町、気象台等 約60名)
- 議 事： 1) 木曾川上流水防災協議会規約の一部改定について
2) 「木曾川の減災に係る取組方針」令和4年度のフォローアップについて
3) 重点的な取組について
① 教育委員会と連携した水防災教育の推進について
② 排水作業準備計画の作成について
4) その他の取組について(流域タイムライン、WEB会議ツールの活用)

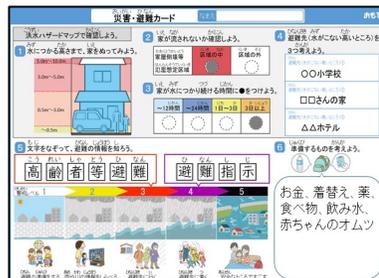


◀ 協議会の様子

「木曾川上流の減災に係る取組方針」における重点的な取組① 教育委員会と連携した水防災教育の推進について

【令和4年度の取組内容】

- 教育委員会と連携した災害・避難カード(小・中学生向け)を新たに作成し、岐阜県内の小学校における出前講座での活用・見直しを経て、木曾川上流河川事務所が運営する防災教育ポータルサイトで公表しました。



▲ 災害・避難カード



▲ ポータルサイトのバナー・QRコード

【令和5年度の取組(案)】

- 災害・避難カードを活用した試行授業に協力いただけるモデル校を選定し、試行授業の様子を撮影・編集するなどして、他の学校でも災害・避難カードを活用した授業を実施できる体制を構築します。
- また、チラシ配布やバナー掲載依頼等を通じ、ポータルサイト等の更なる周知を図ります。

「木曾川上流の減災に係る取組方針」における重点的な取組② 排水作業準備計画の作成について

【令和4年度の取組内容】

- 令和4年度は、羽島市の位置する氾濫ブロックについて、住民向けの説明会や関係機関との排水作業訓練・合同ヒアリングを実施しました。
- 地元住民からは、「大規模氾濫時には、堤防に多くの車両が退避し、緊急車両の通行の妨げになる」などの意見が挙げられました。本計画の実現には住民理解も必要であるため、意識啓発につながる広報動画を作成しました。



▲ 排水作業準備計画に関する動画紹介の様子

【令和5年度の取組(案)】

- 排水作業訓練や合同ヒアリング等を通じ羽島市の位置する氾濫ブロックで検討した内容を、水防災協議会に参画する市町村が属する他の氾濫ブロックにも広げていきます。

⇒次頁に市町の有効な取組紹介、意見交換の内容を記載

【市町の有効な取組紹介】

【輪之内町】 町内施設8か所へまるごとまちごとハザードマップを設置

- 昨年度、防災無線4か所、町防災センター3か所、そして町役場の庁舎玄関前に1箇所、計8か所に「まるごとまちごとハザードマップ」として浸水深の標示を実施した。
- 本町は揖斐、長良川の一级河川に挟まれて、過去から水害に悩まされてきた地域である。
- 住民は、古くから水に親しむと同時に水の怖さも知っている。一方で、必ずしも水を正しく恐れるということが徹底されている人ばかりではない。
- 住民自らが、輪之内町の水害リスクについて、日々の生活から実感し、向き合うことで水防災意識の向上を図ることが重要である。そのような中、非常に重要な取組と考えている。
- 本取組により、万が一、水害が発生し得る場面でも、住民が主体的に安全・迅速・確実な避難行動を実行できるようにしていきたい。



▲ 木野町長



防災無線への浸水深の標示▶

【本巣市】 防災士養成講座の開催

- 災害から身を守り、地域の防災力の向上を図るため、自助・共助で活躍する防災士の養成に取り組んでおり、令和4年10月8日・9日に防災士養成講座を開催した。
- 地域住民で組織する自主防災組織、また中学生、市内の小中学校の教員、市内企業の従業員など幅広く受講していただき、67名(中学生12名含む)の防災士を養成することができた。
- 今後は、水害等の自然災害から命を守るため、地域防災力向上の中心的な役割を担い、地域における共助で活躍できる防災士をさらに養成していく。
- また、新たな防災情報を研修等で提供するなどで、高い防災意識の保持に努め、防災士が地域の防災訓練などで自主的、自発的に活動できる体制が作られるよう、市としても支援していく。



▲ 藤原市長



▲ 防災士養成講座の様子

【意見交換】

【羽島市】

- 羽島市では、「防災コーディネーター制度」を設けており、300名を超える防災士の資格取得者がいる。そのうち、市の補助を受けずとも、自分たちで防災士活動をやっていきたいという人が、「防災研究会」として170名強いる。
- 従来の『防災士』という形だけでなく、「自分たちが『防災の担い手』として地域で貢献をしていく」という本来と少し離れた形の状況が顕著になっている。住民防災意識の偏りも見られる中で、防災士について先進的な事例があれば、教えていただきたい。
- また、近年の球磨川における被災状況の中で、防災機関がしっかりと事前準備を行い、被害を最小限に食い止めたということを知っている。事前に「最悪」のリスクや想定される被害を情報提供をすることで十分な事前準備につながると考えるが、どのようにお考えか。



▲ 松井市長

【木曾川上流河川事務所】

- 当事務所では、想定最大規模の洪水浸水想定区域図等で国管理河川の氾濫に係るハザード情報を提供しているところ。
- また、「最悪」の場合に想定される被害の大きさについては、事前に情報提供することで、羽島市長がおっしゃる従来の防災士に限らない『防災の担い手』の普及にもつながると思うので、最悪リスク情報の提供についても、今後、検討・調整してまいります。



▲ 板垣事務所長